

滋賀県の地震防災についての県民意識調査結果 概要版

令和7年1月
滋賀県 知事公室 防災危機管理局 防災対策室

- 対 象 : 滋賀県内に居住する満18歳以上の男女
- 配 布 数 : 3,500名 (選挙人名簿より層化抽出法)
- 調査期間: 令和6年8月8日～9月6日
- 調査方法: 郵送配布、紙面・WEB回答併用調査法
- 回 収 数 : 1,401名 (回収率40.0%)

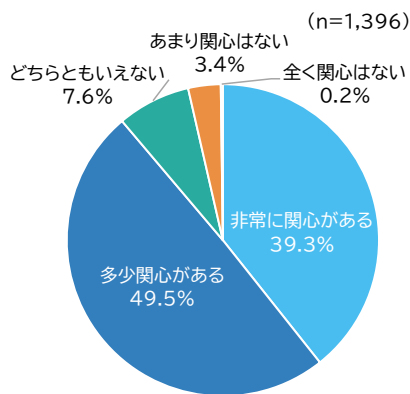
※一部設問については、回答割合の上位項目のみを抜粋しています。

回答者	男性	女性	その他・無回答	合計
10歳代	4 (0.3%)	8 (0.6%)	0 (0.0%)	12 (0.9%)
20歳代	51 (3.6%)	67 (4.8%)	1 (0.1%)	120 (8.6%)
30歳代	75 (5.4%)	85 (6.1%)	2 (0.1%)	162 (11.6%)
40歳代	79 (5.6%)	129 (9.2%)	3 (0.2%)	211 (15.1%)
50歳代	95 (6.8%)	129 (9.2%)	2 (0.1%)	226 (16.1%)
60歳代	129 (9.2%)	171 (12.2%)	4 (0.3%)	304 (21.7%)
70歳代	183 (13.1%)	177 (12.6%)	3 (0.2%)	362 (25.9%)
無回答	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	3 (0.2%)
全体	616 (44.0%)	767 (54.7%)	18 (1.3%)	1,401 (100%)

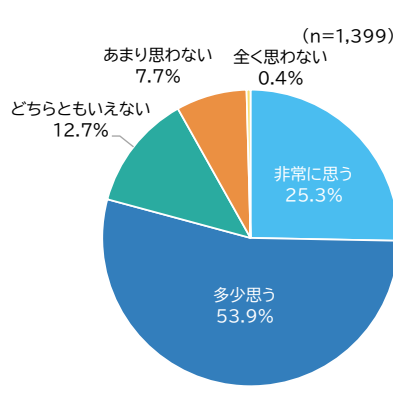
1. 地震発生リスク認知

大規模地震への関心があるのは9割弱に対して、自身が被災する可能性があると感じているのは8割弱に留まった。
大規模地震に関する心配は、ライフラインの停止、建物倒壊、食料・飲料水確保が多かった。

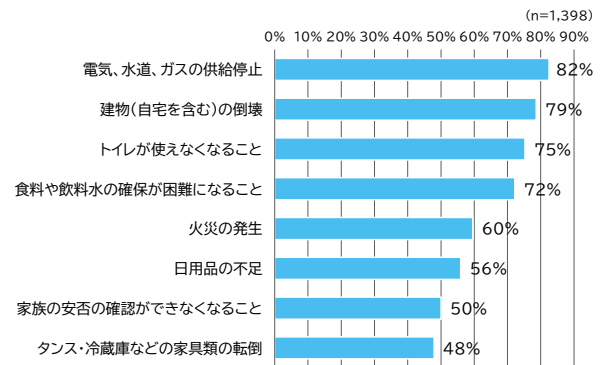
大地震への関心



自身が被災する可能性



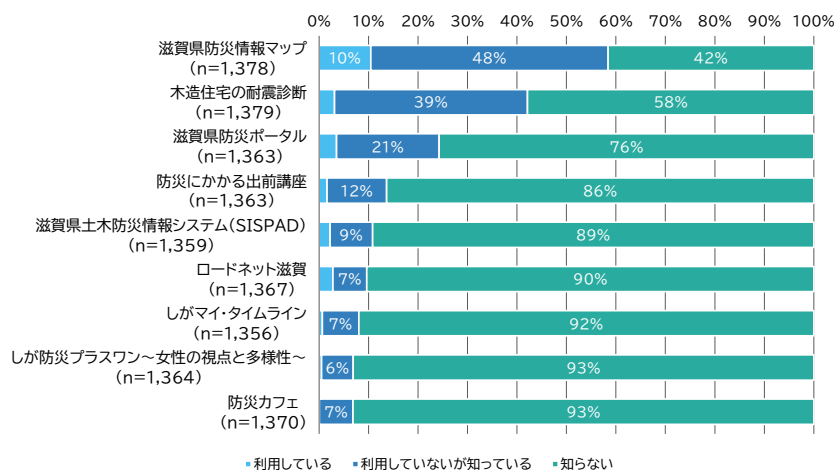
大規模地震に関する心配



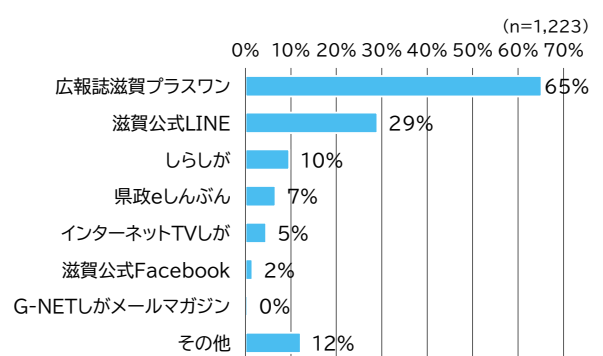
2. 滋賀県の防災行政への考え

県の防災事業の利用・認知は、滋賀県防災情報マップ、木造住宅の耐震診断、滋賀県防災ポータルが多く、閲覧している県の広報・発信媒体は、広報誌滋賀プラスワンが多かった。県の防災事業への満足、県の防災事業への信頼は一定程度に留まった。

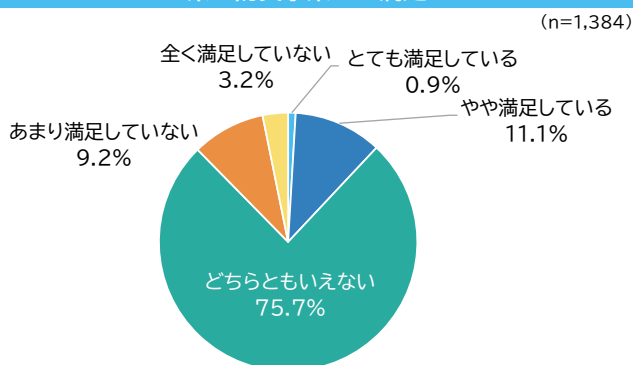
県の防災事業の利用・認知状況



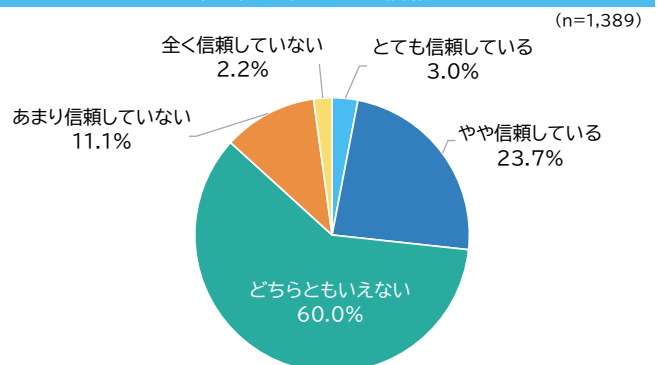
閲覧している県の広報・発信媒体



県の防災事業への満足



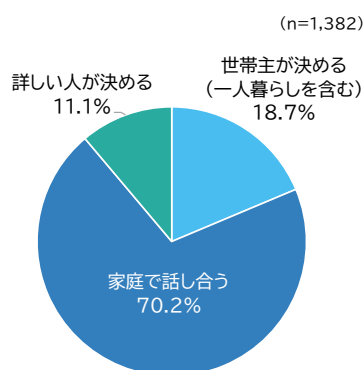
県の防災行政への信頼



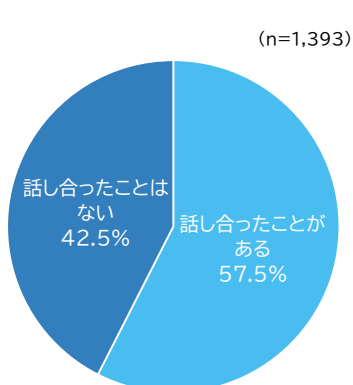
3. 自助について

家庭での防災対策の決定方法は、家庭で話し合う世帯が多かったが、家族・身近な人との話し合いを行ったことがある世帯は一定に留まった。自助・共助・公助の重点はバランスをとるべきが多かった。地震への事前の備えの自己評価は一定程度に留まった。

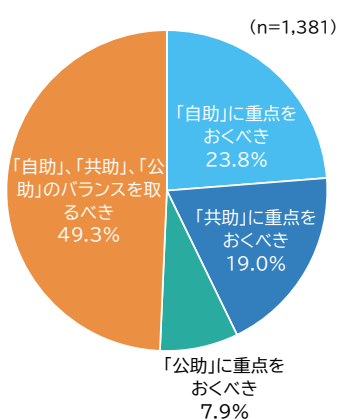
家庭での防災対策の決定方法



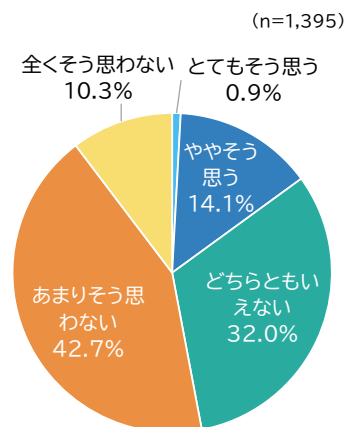
家族・身近な人との話し合い



自助・共助・公助の重点



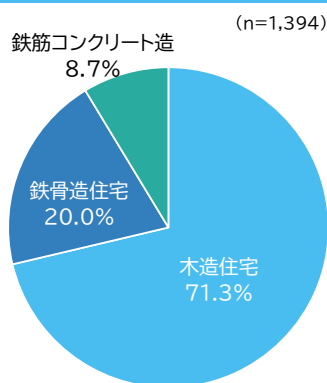
地震への事前の備えへの評価



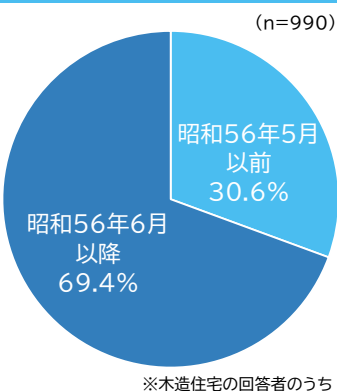
4. 住宅の構造・耐震状況

旧耐震基準の木造住宅の多くで耐震診断を行っておらず、耐震化工事を行っていないかった。

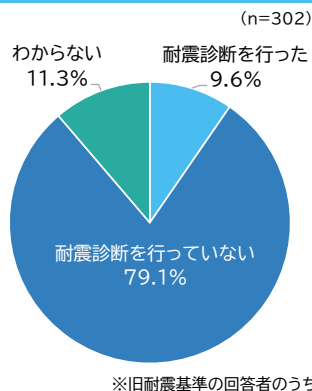
住宅の構造



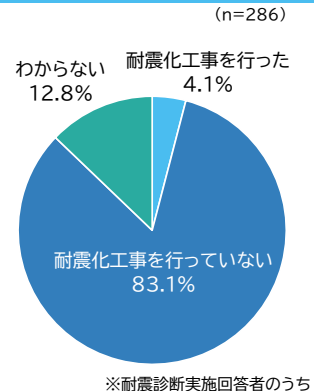
住宅の着工年次



住宅の耐震診断



住宅の耐震化工事

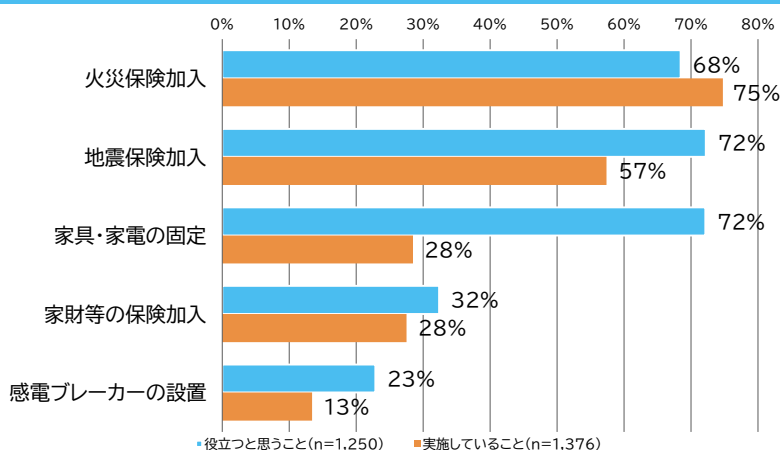


5. 防災の取組について

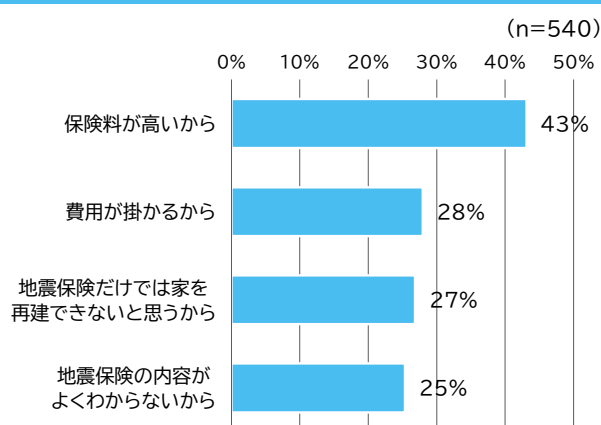
①建物・家財の防災対策

実施している取組は、火災保険加入、地震保険加入、家具・家電の固定が多く、地震保険に加入していない理由は、保険料が高いからなどであった。

建物・家財の防災対策(役立つと思うこと・実施していること)



地震保険に加入していない理由

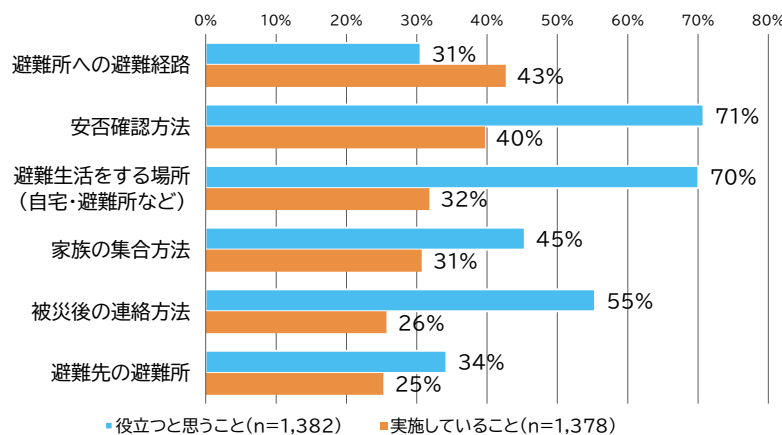


5. 防災の取組について(続き)

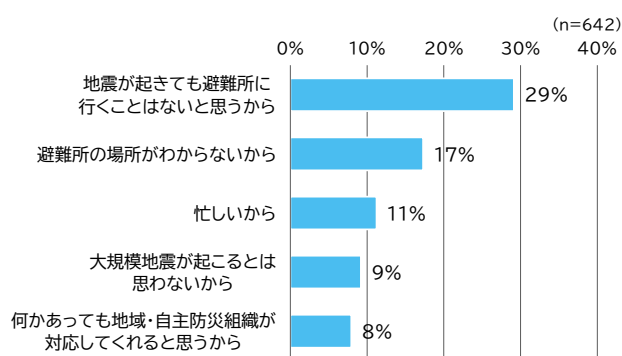
②発災時の行動の事前確認

実施している取組は、避難所への避難経路、安否確認方法で、避難所への避難経路を確認していない理由は、避難所に行くことはないと思うからなどであった。

発災時の行動の事前確認(役立つと思うこと・実施していること)



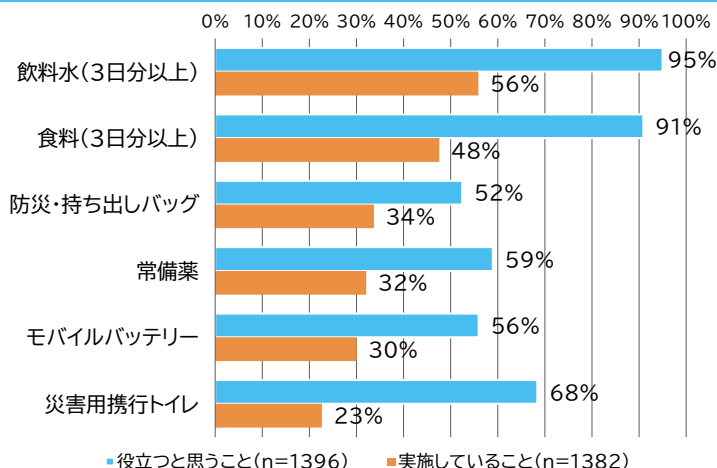
避難所への避難経路を確認していない理由



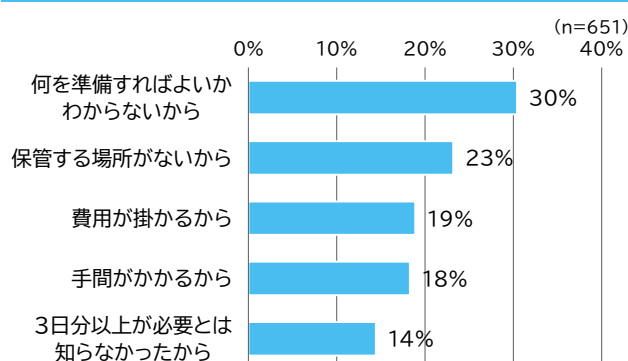
③災害時の備蓄

備蓄時は、飲料水(3日以上)、食料(3日以上)、防災・持ち出しバッグが多く、食料(3日以上)を備蓄していない理由は、何を準備すればよいかわからないから、保管する場所がないからなどであった。

災害時の備蓄(役立つと思うこと・実施していること)



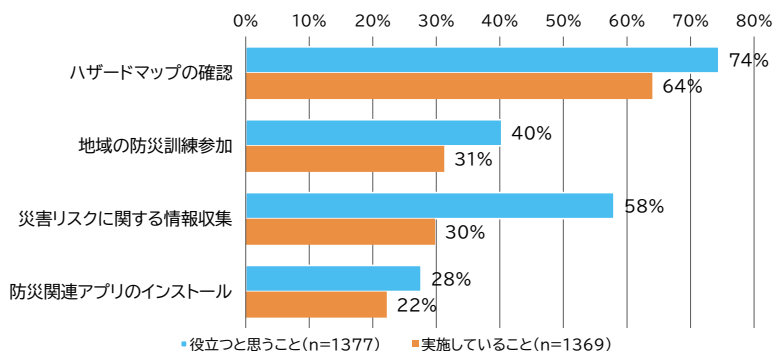
食料(3日以上)を備蓄していない理由



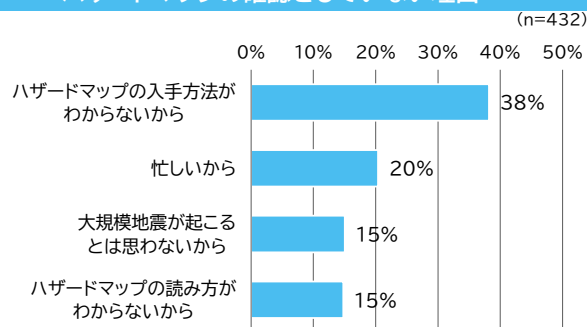
④平時の情報収集・訓練参加

実施している取組は、ハザードマップの確認、地域の防災訓練参加、災害リスクに関する情報収集が多く、ハザードマップの確認をしていない理由は、ハザードマップの入手方法がわからないから、防災関連アプリのインストールをしていない理由は、アプリのインストール方法がわからないからなどであった。

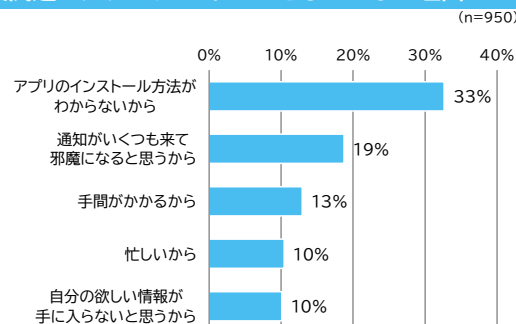
平時の情報収集・訓練参加(役立つと思うこと・実施していること)



ハザードマップの確認をしていない理由



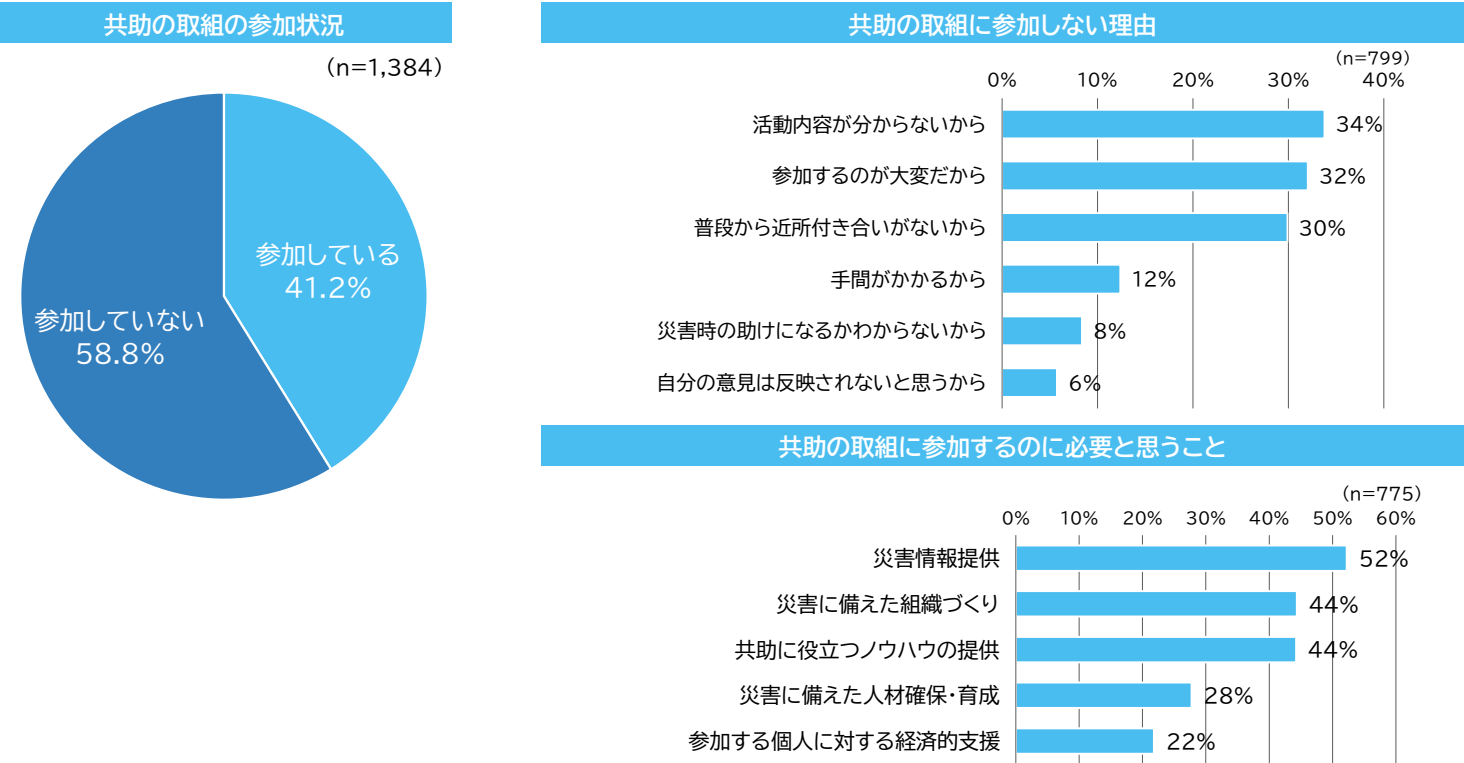
防災関連アプリのインストールをしていない理由



6. 防災の取り組みを進めるための問題や必要な支援

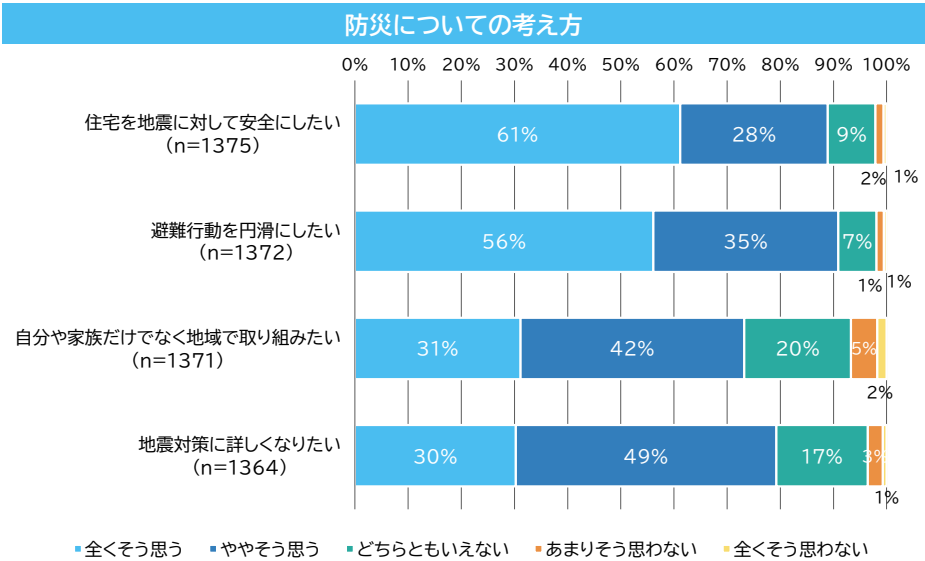
① 共助の取組について

実施している取組は、避難所への避難経路、安否確認方法が多く、避難所への避難経路を確認していない理由は、避難所に行くことはないと思うからなどであった。



② 防災についての考え方

防災についての考え方については、避難行動を円滑にしたい、住宅を地震に対して安全にしたい、地震対策に詳しくなりたい、自分や家族だけでなく地域で取り組みたいの順に多かった。



③ 防災の取組に必要な制度・支援

防災の取組に必要な制度・支援については、行政からのわかりやすい情報提供、あなたが取り組みやすい簡易な取組の紹介、自分の防災の取組についてセルフチェック・自己点検できる仕組み、あなたの生活様式に応じた取組のすすめが多かった。

